

だいせつざんのすがお

大雪山の素顔

山岳ガイド、旭岳ビジターセンター、自然解説員などで活躍する人たちをリレーしています。高山植物、紅葉、雪、動物など「自然の大博物館」といわれる大雪山の素顔が見えてきます。

ダイナミックな変化の春

5月は1年の中でも日々めまぐるしく自然の風景が変わる時です。真っ白な雪を抱いた大雪の山々、密生しているマツなどで黒っぽく見える針葉樹の森、紅葉のように色とりどりの芽吹きが美しい広葉樹の里山、青色や白色の空や雲を映して毎日少しずつ景色が変化していく田んぼが織りなす風景が目と心を楽しませてくれます。劇的に風景が変わっていく時、そこに生息している生き物たちも活動的です。私たちが住んでいる場所に近い里山でもたくさんの生き物たちをみつけることができます。

広葉樹や田んぼが広がる里山では、樹木や足元の植物の花が咲き始めると昆虫たちが動き始めます。特にマルハナバチやハナアブなどは、植物の受粉のために重要な役割を占めます。自身の繁殖活動のために必死になって

▶エゾサンショウウオ



いるので、目の前で見ていても逃げることはありません。

水辺ではエゾアカガエル

やサンショウウオが卵を産み始めます。じっくり観察するとプチプチとしたゼリー状の卵塊の周りに親の姿を見ることがもできます。じっと気配をこらえていると、カエルの鳴き声もにぎやかに聞こえます。

湧き水の流れる沢の石をひっくり返すとタマゴを抱えたニホンザリガニや越冬に成功したトンボの幼生（ヤゴ）を見つけることもできます。倉沼川のような田んぼの中を流れる小川にも大きなニジマスが産卵のために遡上してくるのを橋の上から見ることもできます。

林の中では繁殖のために本州の越冬地からもどってきた鳥たちが恋の歌（さえずり）やキツツキの木をたたく音が聞こえ、巣づくりをしている姿も見ることが出来ます。里山はとてにぎやかになるのです。

ガイドオフィス風 鳥羽 晃一

俳句

生命ある星のかけらや雪華飛ぶ

朧夜や生まれし故郷は他国なり

剪定の首の手拭い白きまゝ、

吉野山一目千本桜狩り

月に詩われに酒あり朧の夜

涅槃ねはんにし西夢ひとのみの大津波

なに棲むや朧の月の翳の闇

凜とした木立やわらぐ月朧

足萎へて震災の山おぼろ月

朧の夜けふの日記をうめられず

梵鐘の山肌流るおぼろかな

おぼろ月夜かす掠みの奥の東山

下萌や大地の息吹きつたわりぬ

徳光吐苦

杉山りつ

山口佐知子

高瀬潤

石澤清宏

澤田久美子

松山蓉子

三島智

秋山深雪

長谷川きみゑ

小林露葉

青野公花

杉山ひろのり

